

諏訪二葉高校の標準服について

本校では、式典や行事等において、「標準服」または「標準服に準ずる服装」を着用してきました。標準服の着用機会としては、人により着用頻度に差はありますが、入学式や卒業式などの式典、生徒総会などの学校行事、対外的な行事、受験などが挙げられます。一般的なスーツやその他適当な服装を「標準服に準ずる服装」としてご用意いただいても構いません。（中学校の制服でも結構です。）



標準服の制定

昭和12年に制服（セーラー服）が制定されたが、戦争による物資の欠乏によって服装は自由にならざるを得なかった。その後、「服装は自由」の時代が続いたが、「儀式や団体行動の場合、統一された服装がよい」「自由であることから、かえって経済的に家庭の負担が大きい」など議論が繰り返され、セーラー服の希望も多くあったが、「社会人になってからも使えるように」という配慮から背広型に決定し、昭和31年に、現在の標準服が制定された。制服に縛られず、個性や自己主張を尊重する。これもまた「二葉の校風」といえる。

（同窓会誌「百年のあゆみ」より）

女子高時代（昭和62年頃まで）

標準服は、基準になる服装で制服ではないのだから、似たような服装であれば、入学時に標準服を買う必要はなかった。実際、ブレザースーツで青から黒まで色も様々、ブレザーもシングルボタンもあれば、ダブルの生徒もいた。普段使いができた。ネクタイはスクールカラー（えんじ色）と決まっていた。